

祭事と都市空間の関係性の把握と考察

港町・鞆における地域資源の発掘と利用を目的とした調査と実践 (その1)

鞆 祭事 都市空間
地域資源 コミュニティ 神輿ルート

正会員○安川 千歌子* 同 内藤 康介**
同 西村 裕美* 同 ウィチエンプラディット ポンサン***
同 阿部 正隆**** 同 窪田 亜矢*****
同 阿部 大輔*****

1. 背景と目的

鞆は広島県福山市に位置する歴史的な港湾都市であり、豊富な建築・土木遺産に恵まれている。一方で、埋め立て架橋計画の議論の過程に見られたまちの課題や人口減少の問題、急速な観光地化に伴う新たな課題等に直面している。2009 年の埋め立て架橋計画の判決を受け、まちづくりの次の展開を考えるべき時期にある今、鞆の魅力を最大限に踏まえつつ、より持続的なまちの将来を構想すべきではないかと考える。

まちの将来を議論する際に改めて共有すべきなのが、「鞆らしさ」である。これは一般的には地域資源とも呼ばれている。歴史資源に代表されるような物的な資源だけではなく、これまで脈々と継承されてきた「生活・文化」も重要な地域の特徴であり魅力である。これらははっきりとした目に見える形を持たないためにその価値を議論しにくい、鞆の美しい風景を支えているものである。

祭事は、鞆の重要な生活・文化の一つであり、古くからまちの人々の暮らしと深い関わりがある一方で、生活・文化の移り変わりに伴い実態が変化している。また、鞆の地名の由来が神社の起源に由来していること、神社の位置がまちの骨格の形成に影響していること等、都市形成史の観点からも重要である。本研究では、祭事の実態を詳細に観察・記述することで鞆の重要な地域資源の一つとしての祭事の実態の把握を目的とする。

2. 調査項目と方法

調査項目は主に以下の4つである。

- I) 都市形成史と祭事の関係
- II) 祭事運営の現状：1年間の暮らしと祭事
祭事に関わる人の仕組み
- III) 祭事の実態：プログラム、神輿ルート、
祭事で使われる空間

IV) 祭事で使用する道具やもの
文献調査により都市形成史や年間スケジュールを、ヒアリング調査により祭事に関わる人の仕組みや祭事に関わる道具やものを、観察・体験により祭事の実態を把握する。実態調査については、沼名前神社の本社および境内社である渡守神社と八幡神社の祭事を対象とした。

3. 調査結果

3-1. 都市形成史と祭事の関係

鞆を代表する神社として、沼名前神社⁽¹⁾がある。起源は今からおよそ1800年前、神功皇后が西国へ御下向の際に御寄泊になり、社がないことを知って斎場を設け、海中から涌出した霊石を神璽として綿津見命を祀ったのが始まり

である。さらに、御還幸の折に再び鞆の浦にお寄りになり、綿津見神の大前に稜威の高鞆(いづのたかとも：弓を射るときに使った武具の一種)を納めお札をされたことが鞆という地名の語源になっている。

また、かつて鞆町は、江之浦町、西町、道越町、関町、石井町、鍛冶・祇園町、原町の7つに町会が分かれていた。鞆の祭りは現在もこの旧町会の単位で行われていることから、旧町会でのコミュニティ意識が強く残っている。

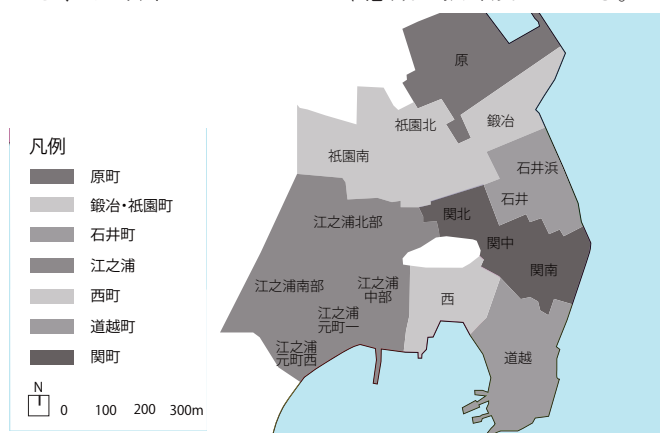


図1. 旧鞆7町の区分

3-2. 1年間の暮らしと祭事

鞆には1年間に多くの祭事がある(表1)。1年間という大きな時間の流れの中で、祭事はハレの場として鞆の人々の暮らしに深く結びついている。

表1. 鞆の祭事 年中行事

社・境内社			境外摂末社			
月	日	祭典・行事名	月	日	祭典・行事名	町名
1	1	元旦祭	16		恵美須神社	原町
1	3	節分	23		恵美須神社	石井浜町
	11	紀元祭	24		恵美須神社	江之浦元町
2	13	叙位詣	1	3良神社		江之浦元町
	14	御弓祭	21		恵美須神社・三笠稲荷神社	江之浦元町
	17	祈年祭	2		稲荷神社	道越町
3	21	鞆護国神社春祭	4		恵美須神社	平町
5	2	例祭	16		住吉神社	御幸町
	3-5	講社安全祭	16		恵美須神社	原町
6	30	大歳祭(茅の輪くぐり)	23		恵美須神社	江之浦元町
	10	御手火祭	9		玉津島神社	焚焼町
7	11	神輿渡御祭	16		金古稲荷神社	鍛冶町
	18	神輿渡御祭	17		屋形稲荷神社・稲島稲荷神社・三笠稲荷神社・恵美須神社	江之浦元町
	25	神能祭	17		福山稲荷神社	西町
	17	渡守神社渡御祭	17		除霊稲荷神社	道越町
	18	渡守神社御旗所祭	17		日ノ出稲荷神社	焚焼町
9	19	渡守神社遷御祭	17		秋見神社	御幸町
	20	鞆八幡宮宵祭	26		山ノ神神社	御幸町・平町
	21	鞆八幡宮例祭	27		三良神社	江之浦元町
	23	鞆護国神社秋祭	28		次郎稲荷神社	道越町
10	7	神嘗幸祝祭	9		恵美須神社	道
	3	明治祭	12		高 神社	御幸町・平町
11	23	新嘗祭	7,8		定規神社渡御祭・遷御祭	平町
	23	天長祭	4		稲荷神社	道越町
	31	大歳式・除夜祭	4		江見稲荷神社	原町
毎月	1	月首祭	17		恵美須神社	江之浦元町
	14	月次祭	19		庵神社	石井浜町
毎日		御日供祭	20		御子神社	関町
			23		三良神社	江之浦元町
			11	3	恵美須神社・菟神社	御幸町
			3		恵美須神社	関町・石井浜町
			17		菟神社	石井浜
			20		御子神社	関町
			23		三良神社	江之浦元町
			11	3	菟神社	西町
			4,5		小島神社	原町
			12		鍛冶神社	鍛冶町

A Grasp and Consideration of Relationship between Festival and Urban Space : Research and Practice for Find and Use of Local Resources in Tomo (Part.1)

YASUKAWA Chikako, NAITO Kosuke, NISHIMURA Hiromi,
ABE Masataka, VICHIEENPRADIT Pornsan, KUBOTA Aya,
ABE Daisuke

3-3. 祭事に関わる人の仕組み

軀の祭事運営の中心にあるのが沼名前神社祭事運営委員会であり、まちの重要な自治組織の一つである。沼名前神社祭事運営委員は旧軀7町を基に選任され、各町会の祭の実行組織である若頭・若衆を指揮・監督し、祭りを支える。軀では「祭運」「大世話方」「世話方」とも呼ばれている。

3-4. 祭事の実態

沼名前神社の本社および境内社の祭事である、お弓神事、大祓祭、お手火、チョウサイを対象として調査したが、本稿では軀において重要な渡守（わたす）神社⁽²⁾の例祭であるチョウサイの調査結果（調査日 2010.9.17-19）から抜粋して掲載した。

渡守神社の例祭は、旧暦の8月11日から3日間行われる。例祭の時に引き回される山車をチョウサイと言い、布団太鼓や神輿太鼓とも呼ばれる。瀬戸内海沿岸では、チョウサイや太鼓台と言われ、北九州一帯にも分布している。

祭事期間中、各家々の飾り付けや駐車場や土間に飾られた「造り物」により当番町の風景は大きく変化する。また當夜の夜には、玄関先や駐車所、会館前の道路等至る所で宴が開かれ、まち全体が宴席と化す。



図2. チョウサイ（山車）ルート

4. 祭事と都市空間の関係性の考察

お手火の際の神輿ルートを重ねると、必ず通る道とそうでない道に分けられる。前者は沼名前神社の参道や旧来のメインストリートが中心だが、そうでない路地もある。よく見ると祠のある重要な道であることがわかる。また、神輿の折り返し地点や休憩地点を実測・観察した。図3上の1の駐車場は、駐車場の寸法に対して駐車台数が少なく通常より少し広がっている。浜に続く道でもあり、生活動線でもあることが分かる(図4)。倉庫、ゴミ置き場、自動販売機もあり、一見すると普通の駐車場だが普段から活動密度の高い場所であると考えられる。

また、祭事の際には家の玄関先が神輿や行列を見る観覧席や宴席に、個人の住宅の駐車場や土間、一室が展示空間に、大きな駐車場が休憩や宴会に利用される広場に変化する(図5)。一見すると普通の空間が、祭事の際には様々な機能を受け止めている。特に駐車場はまちなみを阻害する負の要素とも捉えられがちであるが、空地として祭事を支える役割を担っていると言える。

